

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 本校の校訓である「人格の陶冶」を実現すべく、「自立した社会人、地域に信頼され、期待される社会人」の育成をめざす。そのために夜間定時制、工科高校総合学科の柔軟な教育課程の特性と地域の教育力を活かして、以下の教育を行う。
- 「ものづくり」を核に据え、基本的な知識・技能の定着を図りつつ、各種資格取得に挑戦させ自己実現へと導く。
 - 「働きながら学ぶ」ことを大切にして、基本的生活習慣、社会規範の確立及び自らの進路実現に向け積極的に取り組む態度を育てる。
 - 教育活動全体を通して、教員と生徒が互いに信頼関係を築き、生徒の状況を的確に把握し、個々の能力や適性に応じた教育活動を行う。
 - 地域と連携し、地域の教育力を最大限に活かした教育活動を通して、社会の中で生きる自信と豊かな心を養う。

2 中期的目標

- 「自立した社会人」としての資質・能力の育成
 - 生徒の規範意識の醸成
 - 社会人としての「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」を涵養し、社会人としての規範意識を醸成する。
 - 「わかる授業」による基礎学力の育成
 - 参加型・対話型の内容を多く取り入れた授業展開や、プロジェクター等 ICT 機器を活用し視覚情報を増やすことで、生徒の顔があがりやりとりの多い参加型の授業に取り組む。また、1 人 1 台端末が教育活動で活用され、生徒にとってわかりやすい授業となるように、ICT 環境を整備するとともに、ICT を活用した授業実践に向けた教員研修や好事例の共有などに取り組む。その成果を公開授業、研究授業等で検証していく。
※生徒向け学校教育自己診断：「授業はわかりやすく楽しい」「教え方を工夫している先生が多い」の平均が、令和 8 年度に肯定値 80%を維持している。
(R3 77.1%、R4 80.1%、R5 95.6%)
 - 技能講習や資格検定等を見通した学びを通じて、生徒の自己実現への意識を高め、ICT 活用能力の向上を図る。
※各種資格および検定の延べ合格者数が、令和 8 年度に 30 名を維持している。(R3 53 名、R4 28 名、R5 37 名)
 - 夢と志を持つ生徒の育成
 - 問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力を育て、社会人としての資質や能力を確実に身につけるよう育成する。
※「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育、人権教育を通じて、生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理、分析を進める能力を高める。
 - 「働きながら学ぶ」ことを通じて学校生活や社会生活への適応を図り、進路実現につなげる。
※学校幹旋就職希望者の内定率が、令和 8 年度に 100%を維持している。(R3 100%、R4 100%、R5 100%)
アルバイト等の就労体験率が、令和 8 年度に 90%を超えている。(R3 90%、R4 85%、R5 86%)
- 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化
 - 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
 - 担任、支援教育コーディネータ、教育相談、養護教諭等、連携を密にしてワンチームとして生徒の特性に応じた学習指導、生徒指導を行う。
※少人数で手厚く指導できる授業環境を教職員の協働により確保し、カウンセリングマインドを発揮し、個々の生徒に応じた支援を組織的に実践する。
生徒向け学校教育自己診断：「学校生活についての先生の指導は理解できる」令和 8 年度に肯定値 80%を維持している。
(R3 80.7%、R4 75.4%、R5 94.6%)
 - 課題を抱える生徒や、発達障がいを含めた障がいのある生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした指導・支援の充実を図る。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、福祉・医療関係人材及び関係機関との連携を深め、多角的な視点で生徒を支援していく。
※生徒向け学校教育自己診断：「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる」、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の平均が、令和 8 年度に肯定値 80%を維持している。
(R3 79.2%、R4 81.8%、R5 91.1%)
 - 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒に「自己有用感」を醸成する。
 - 生徒会行事、生徒の自主的活動、ボランティア活動や地域連携事業の継続と発展をめざす。
〔災害ボランティア活動、地域連携事業〕
学校安全総合支援事業「災害ボランティア活動の推進・支援事業」に応募するなど、生徒がボランティア活動に参加することで、コミュニケーションの能力を身につけ、他者から感謝され自己有用感を高めると同時に、全国で定時制高校のモデル校をめざし定時制高校の存在意義をこれまで以上に高める。
※活動の成果を披露するため、各種発表大会に積極的にエントリーをして、全国大会規模の舞台で年に最低 1 回以上は発表することをめざす。その活動を通して生徒の自己有用感を醸成する。
 - 部活動では、生徒のバランスのとれた心身の成長を促すよう心がける。ルール、礼儀、マナーを学ぶことで、自己を大切にし、他者を尊重できる姿勢を育成する。目標設定による自己達成感とふり返りにより主体的に取り組む力を育み、集団や学校への帰属意識を高める。
※部活動加入率が、令和 8 年度に 65%を維持している。(R3 52%、R4 67.2%、R5 76.1%)
定通全国大会への出場、近畿レベル以上の各種大会やイベントでの入賞をめざす。
- 安全、安心で魅力ある開かれた学校づくり
 - 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる環境整備
 - 「自他のいのちを大切にする心」や自尊感情を育てるために発達段階に応じた学習を行う。SNS 上でのいじめやトラブルの生起、ネットワーク上で有害情報が発信される等の現状を踏まえ、情報の取扱い、とりわけ情報を発信する際の基礎的な資質能力を育成し、生徒が被害者にも加害者にもならないよう、互いを大切に思うこと（リスペクトの精神）の重要さを教えていく。
※生徒向け学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」令和 8 年度に肯定値 80%を維持している。
(R3 85.7%、R4 77.2%、R5 94.5%)
 - 防災教育など自然災害を想定した実践的な防災行事を地域と共に行い、「自助・共助・公助」の基盤を作る。
学校経営推進費「学校油田プロジェクト」事業を持続発展させる。ペットボトルキャップを油化し、バイオディーゼル発電機の燃料として、防災イベントで発電を行うなどの活動を被災地で紹介することで発信し、継続して防災活動や防災ボランティアに取り組む。
 - 教育活動の積極的な情報発信
 - 学校ホームページの質感を充実させるとともに、更新頻度を高める。
 - 中学生、保護者、地域に対して、必要な情報をタイムリーに提供する。
※地域連携事業を積極的に継続して、本校の取り組みを発信し続ける。
- 学校組織力向上と教職員の資質向上
 - 学校組織力向上
 - 教員としての本来の職務を遂行するためには、教員間の学び合いや支え合い、協働する力が重要である。学びの共同体としての学校の機能が十分発揮された同僚性の高い職場をめざす。

府立堺工科高等学校 定時制の課程

イ	いじめ・虐待等の生徒指導事象や災害等の危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。
(2)	教職員の資質向上
ア	社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員を組織的・継続的に育成する。とりわけ、教職員の人権研修を充実させ、すべての教職員が自らの人権感覚を高めるとともに、人権意識を見つめ直す機会とする。生徒が信頼して安心できる学校づくりを推進する。
イ	日常的な OJT の推進、校内研修の活性化を行う。
ウ	働き方改革に関する取組みとして、「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」、「学校閉庁日」を実施する。ICT を活用した校務運営の効率化を図り、会議などの業務内容を合理化する。勤務時間管理及び健康管理を徹底するとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。
エ	個人情報の取扱いに対する教職員の意識を高め、適正な取扱いができるよう、個人情報の管理のためのルール of の徹底を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
① 学校教育全般について 学校教育全般に係る「学校へ行くのは楽しい。」の肯定値が 70.6%と 0.6pt 上昇し、保護者の肯定値も 75.0%と高い評価を得ている。学校行事の工夫や部活動の活性化に加え、居場所事業やていねいな生徒支援などに取り組んでいる成果があらわれていると思われる。給食の継続を維持しながら、生徒に対して働きながら学ぶ姿勢の育成や、ものづくりを核にし、資格取得が可能なカリキュラムを携え、各授業において教え方を工夫している成果があらわれていると考えられる。 ② 学校安全について 「人権の大切さについて学ぶ機会が多い。」の肯定値が 90.2%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い。」の肯定値が 92.2%、「学校で地震や火災などの災害がおこった場合、どのような行動をとればよいか具体的に知らされている。」の肯定値が 86.0%と高い評価である。地域と連携した講演や講話を含め、日ごろの指導及び支援の成果があらわれている。「先生は他の人に知られたくない秘密を守ってくれる。」の肯定値が 92.0%、「成績などの内容についてプライバシーが守られている。」の肯定値が 98.0%と高く、保護者の肯定値においても、どちらも 100.0%であり保護者からの信頼も厚く、生徒が安心して過ごせる環境を構築できている。今後も継続していきたい。 ③ 生徒指導について 「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる。」の肯定値が 94.1%、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」の肯定値が 91.8%、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」の肯定値が 92.0%と高い肯定値であり、各教職員が個に応じた支援と指導を行えており、さらにカウンセリングマインドを備えた寄り添う指導もしっかりと行えていることがわかる。「先生はいろいろな問題を見逃さず、対応してくれる。」の肯定値も 96.0%と非常に高く、「学校生活についての先生の指導は理解できる。」の肯定値 94.1%につながっていることがわかる。保護者の「学校の生徒指導の方針に共感できる。」の肯定値も 100.0%と高く、保護者の理解も得られている。 ④ 授業関係について 「授業はわかりやすく楽しい。」の肯定値が 82.0%、「教え方を工夫している先生が多い。」の肯定値が 90.2%と高い数値であり、教職員の取組みが生徒の評価に現れていると思われる。「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会が多い。」の肯定値が 92.2%、「学校は、1人1台端末を効果的に活用している。」の肯定値が 82.4%と高く、各授業において、しっかりと活用している様子が伺える。「自分にあった科目を選択できる。」の肯定値も 92.0%と高い。 ⑤ 自立自己実現について 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定値が 92.2%、「学校は、進路について各学年に応じた指導をしている。」の肯定値が 96.1% と、ともに高い数値であり、保護者の肯定値も、どちらも 91.7% となっており、生徒の自立自己実現のために、すべての教職員がしっかりとした進路指導を行い、さらに生徒がそれに応えてくれた成果があらわれていると思われる。 ⑥ 行事・特別活動について 「学校行事(遠足、球技大会、文化祭)は、みんなが楽しく行えるように工夫されている。」の肯定値が 92.2%と高く、「部活動に積極的に取り組んでいる。」の肯定値が 52.9%であり、加入生徒 (62.1%) の約 85% が積極的に取り組んでいることがわかる。	第1回 (令和6年6月14日実施) ○学校経営計画及びスクール・ミッションを確認することで、本校が取り組んでいる内容がよくわかった。多岐の項目にわたって自己診断をきちんとされており、生徒・教師・保護者からも肯定的な評価を多く受けていると感じている。本年度も同じように取り組んでいただき、さらに高みをめざしていただければと思う。 ○本校に生徒を通わせていて、様々な体験や経験をさせていただいているので、そういった取組みを継続しつつ、新たに生徒に還元できる取組みも増やして欲しい。 ○地域連携の取組みの報告を受けて、積極的に地域と関わっている様子が伺えた。さらに取組みを進めるとともに、市や区という枠組みを超えてさらに多くの地域との連携も図っていただきたい。 ○本校の理念にもあるように、これからの時代は正に「自立した社会人」が求められる時代になってきていると思う。これからも本校での教育や授業を通して、自立した生き方や考え方をしっかりと伝えて欲しい。 ○本校は先生方にご尽力をいただき、様々な取組みがなされ、多くのところから注目されている。本年度もこれまでの成果や取組みを踏まえ、さらに新たな取組みに挑戦し、より多くのところや他校からも注目される学校になってもらえればと思う。 第2回 (令和6年11月21日実施) ○普通科の高校ではできないような初めての体験や経験を、授業等を通して学ぶことができるので、とても良い環境で学校生活を送ることができていると思う。 ○府内にとどまらず、府外での活動も活発に行われている点が良いと思う。自分自身もこの間、ふとした会話の中で堺工科高校の名前が出て、非常に嬉しかった。 ○定時制土曜講座堺学の講師として、20年間「ものづくり」を通して生徒の成長を目の当たりにできて、嬉しい。過去の堺工科高校の様々な取組みのおかげで、堺工科高校というネームバリューが上がったのだと思う。このまま定時制および堺工科高校ならではの取組みを続けて欲しいと思う。 第3回 (令和7年2月6日実施) ○本校の取組みを聞かせていただく度に、本当に生徒を安心して通わせることができる学校だと感じている。本校では、他校では体験や経験できない多くのことに取り組んでおられるので、次年度以降もその取組みを続けていただき、さらに発展させてほしい。併せて、給食の取組みについても、次年度以降も恒久的に継続して欲しいと感じている。 ○本校の取組みは堺市内にとどまらず、大阪市内や他の市町村にも大きく轟いている。堺市内だけでなく、他の市町村の中学生にも自信を持って紹介できる学校になってきていると思う。現状に満足せず、さらに取組みを発展させていただき、大阪府一、ひいては全国一の学校になっていただきたい。 ○退学者数減、入学者数増、在校生徒や保護者の満足度が高いことは本当に素晴らしいことだと思うし、先生方の取組みが表れている証拠だと思う。併せて、頻繁に准校長ブログを更新していることも大きなシナジーを生んでいると思う。こういった取組みを今後も続けていただき、さらに素晴らしい学校になって欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成	(1) 規範意識の醸成 ア 社会人としての規範意識を身につけさせる。	(1) ア・家庭と連携して基本的生活習慣を確立させるとともに、授業や行事で社会人として求められるルールやマナーの重要性を理解させ、規範意識を育む。 ・生徒指導事案は生徒指導部と支援教育委員会が連携して、組織的に対応する。	(1) ア・遅刻者数前年度比減。 [3089 件] 学校教育自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感できる」の肯定値 80%を維持する。[88.9%] ・懲戒件数を 10 件以内とする。[4 件]	(1) ア・遅刻総数→3074 件 (◎) 「学校の生徒指導の方針に共感できる。」の肯定値が 100.0% (◎) ・懲戒件数→2 件 (◎) 教職員と生徒が日々言葉を交わし、密に連絡を取るなど、すべての教職員が生徒とのつながりを深めるよう努めている。また、居場所事業や給食の実施、授業への入り込みなどを活用し、生徒に近い距離で接し、支援と指導を心がけている。遅刻者は以前の水準に比べ大幅に減少している。併せて、頻繁に家庭連絡を行うことにより、保護者との連携に努めており、高い理解が得られている。
	(2) 「わかる授業」による基礎学力の育成 ア 参加型・対話型を取り入れた授業の推進	(2) ア 授業アンケートの活用、管理職の授業見学と助言。教員が相互に授業を見学し、公開授業や研究授業を開催する。	(2) ア 学校教育自己診断(生徒)「授業に関する設問」の肯定値 80%以上を維持する。[95.6%]	(2) ア 「授業に関する設問」の肯定値→86.1% (○) 「授業はわかりやすく楽しい」の肯定値が 82.0%、「教え方を工夫している先生が多い。」の肯定値が 90.2%であった。すべての教員が、各授業において対話を取り入れた授業を行うなど、生徒一人ひとりに合った工夫がされている。
	イ 技能・資格検定を見通した学び	イ 技能検定を見通した教育課程の工夫と、各種資格・検定の校内受験や講習の実施により、受験しやすい環境づくりに努め、自己実現への意識づけを行う。	イ 各種資格・検定の校内受験・講習の実施。 合格者 30 人以上。[37 人]	イ 資格・検定合格者 45 名 (◎) ガス溶接 → 9 名 アーク溶接 → 10 名 第 2 種電気工事士 → 3 名 丙種危険物取扱者 → 1 名 基礎製図検定 → 6 名 パソコン技能検 → 14 名 技能検定機械検査 3 級 → 1 名 技能検定旋盤加工 3 級 → 1 名
	ウ 観点別評価の実施と検証	ウ 観点別評価を取り入れたシラバスをもとにした授業を教科ごとに実施する。教科の枠を超えた検証を行い、より適切な評価ができるよう工夫と改善を行う。	ウ 観点別評価を検証する研修を実施する。	ウ 4 回の研修を実施。(◎) 教科の枠を超えた検証を行うことで、全教職員で評価方法についての確認を行った。併せて、意見交換を行うことで、より適切な評価ができるような体制づくりを行っている。
	(3) 夢と志を持つ生徒の育成	(3) ・探究学習を通じて 1 年次から進路実現に向けた啓発を行い、進路指導部、支援教育委員会、ハローワーク等と担任が連携して就労体験を支援し就労意欲や社会貢献意識を育む。 ・生活のリズムを整え、給食をとり、働きながら学ぶ態度を身につけ、3 年次では進路指導部を中心に全職員の支援を受け、進路希望を実現する。 ・ものづくりの専門技能を有する伝統工芸士の方を講師に招き、学校設定科目「堺学(包丁、線香づくり)」を開講する。	(3) ・学校教育自己診断(生徒)「進路に関する設問」の肯定値 80%を維持する。[91.0%] ・アルバイト等の就労体験率 90%[86%]、就職内定率 100%[100%]を維持する。 ・堺学を後期から開講する。	(3) ・「進路に関する設問」の肯定値→94.1% (◎) 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定値が 92.2%、「学校は、進路について各学年に応じた指導をしている。」の肯定値が 96.1%であった。 ・就労体験率 → 90.0% (◎) 就職内定率 → 100%継続 (◎) ハローワークと連携したアルバイトの斡旋や地元企業の協力による就労体験を通じ、働きながら学ぶ態度を身につけさせた。外部講師による講演や堺学でのものづくり等を通じて、生徒の自己実現に向けた啓発を進めた。就職選考では、進路指導部を中心に全教員体制による面接指導を行い、自己を表現する力の育成を図った。 ・後期から堺学を開講している。

府立堺工科高等学校 定時制の課程

2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化	(1) 個々の教育的 ニーズに応じた 支援の充実	(1) ア 支援教育委員会を定期的に開催し、支援 を必要とする生徒が抱える課題の情報集約や その指導方針の共通理解を図り、進路実現に つなげる。 イ 個別の生徒支援に取り組み、事案においても その背景も見定めたうえで適切な支援・指導 を行う。専門人材(SC、SSW)や居場所事業と連 携し、相談体制の充実を図る。	(1) ア 中途退学者 10 % 以 内。[4.5%]学校教育自己 診断(生徒)「学校生活につ いて先生の指導は理解で きる」の肯定値 80%以上 を維持する。[94.6%] イ 学校教育自己診断(生 徒)「生徒支援に関する設 問」の肯定値 80%以上を 維持する。[91.1%]	(1) ア 中途退学者→5.7% (◎) 「学校生活についての先生の指導は理解でき る。」の肯定値→94.1% (◎) イ 「生徒支援に関する設問」の肯定値→92.6% (◎) 「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる。」の 肯定値が 94.1%、「悩みや相談に親身になって 応じてくれる先生が多い。」の肯定値が 91.8%、 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談 できる先生がいる。」の肯定値が 92.0%であつ た。 担任を中心に全教員で生徒の状況を捉え、定例 の支援委員会を年 10 回開催し、情報の集約と個 に応じた支援の方向性を共有している。
	(2) 生徒の自己有用 感の醸成	(2) ア 生徒会活動を活性化する。 イ 部活動やボランティア活動、校外美化活動等 を活性化する。 ウ 地域企業等と連携した職業体験や地域イベン トへの参加を通じ、生徒の勤労観、コミュニケ ーション力を高め、進路実現を支援する。	(2) ア 部活動加入率 65 % 以上を維持している。 [76.1%] イ 近畿レベル以上の各種 大会やイベントに大阪を 代表して参加する。 ウ 職業体験や地域イベン トに参加する。	(2) ア 部活動加入率 62.1% (○) 部活動を知り体験する期間を設け、各種大会や 秋季発表大会等への参加を通じて、生徒の活動 の活性化を図っている。 イ 各クラブにおいて優秀な成績を収めた。(◎) ・ソフトテニス部 「大阪高校定通春季大会 個人戦」準優勝 「大阪高校定通総合体育大会 個人戦」準優勝 ・野球部 「実業高校定通総合体育大会」優勝 ・定通秋季生徒発表大会で、定通教育研究会賞を はじめとする各賞を受賞。 ・ボランティア部 「高校生ボランティアアワード」優秀賞 「ボランティア・スピリット・アワード」 全国大会出場 「中谷医工計測技術振興財団」全国大会出場 「イオン エコワングランプリ」全国大会出場 「脱炭素プロジェクト」 全国大会出場、奨励賞受賞 「全国ユース環境活動発表大会」近畿大会出場 「日本 E S D 大賞全国大会」 精励賞、東京工科大学賞をダブル受賞 ウ 「ゆめ・チャレ」は、新型コロナ・インフルエンザの感染 予防のため、小学生の参加を見送った。 地域企業の協力を得て、本校生徒の地元職業体 験として、規模を縮小して実施する。また、地 域産業の職業体験を実施。また、地域イベント で、本校生徒が小学生の地場産業体験のサポー トをおこなった。(○)

府立堺工科高等学校 定時制の課程

3 安全、 安心で魅力ある開かれた学校づくり	(1)安全で安心して学校生活を送るための環境整備	(1) ア いじめのない学校づくり、SNS 上でのいじめやトラブルに関する啓発を行い、見守りと迅速な対応を組織で取り組む。また、いのちの大切さを学び、様々な人権問題の解決をめざした教育を人権教育として総合的に推進する。 イ 様々な自然災害を想定した防災訓練を行い、「防災」「減災」の意識を高め、「自助・共助・公助」の基盤を作り、災害に備えた危機管理体制の確立を図る。 また、地域や被災地と連携した防災活動にも継続して取り組む。	(1) ア 学校教育自己診断(生徒)「学校安全に関する設問」の肯定値 80%以上を維持する。[92.8%] イ 地域と連携し、防災訓練・防災会議を2回以上開催[2回] 全国規模の発表大会に参加して活動を発表し、成果披露する。	(1) ア 「学校安全に関する設問」の肯定値→89.5% (◎) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い。」の肯定値が 92.2%、「人権の大切さを学ぶ機会が多い。」の肯定値が 90.2%、「学校で地震や火災などの災害がおこった場合、どのような行動をとればよいか具体的に知らされている。」の肯定値が 86.0%であった。 イ 防災訓練 ・夜間定時制として停電を想定した避難訓練を実施。災害時の具体的な対応について取り組んだ。 ・堺市消防局と連携し、Jアラートを含めた災害時対応の講話と消火体験を行い、防災グッズについての説明を受けた。 (合計2回実施、○) ボランティア部において、地域や被災地に対して、積極的にボランティア活動を行った。東北の被災地においては、椿の植樹によるレッドカーペットプロジェクトを行った。また、文部科学省・大阪府教育委員会の災害ボランティア活動事業に認定された。(◎)
	(2)教育活動の積極的な情報発信	(2) ・中学生、保護者、地域に対して、教育情報、校内の活動、地域と連携した活動(堺学、被災地支援)等をタイムリーに伝える。 ・中学校への訪問、学校説明会や体験授業を実施し、適切な進路情報を提供する。	(2) ・各活動について、紙媒体とWeb ページ等で情報発信する。 ・体験入学を2回実施し、12月の体験授業参加 35 名以上。[2回、44 人]	(2) ・本校HPにおいて頻繁に准校長ブログを更新することで、日々の学校生活の様子を発信している。94 回更新 (◎) ・中学校との合同懇談会(7月)を開催し、中学校長との交流会や地域中学の進路ガイダンスなどに参加して情報を発信した。また、中学生・保護者対象の体験入学・個別相談を12月と2月に2回実施し、12月の参加は31名であった。休日の個別相談会を10月から月1回実施し、平日の相談希望とともに、一人ひとりに合わせた情報の提供を行っている。(◎)

府立堺工科高等学校 定時制の課程

4 学校組織力向上と教職員の資質向上	(1) 学校組織力向上 ア 教職員が相互に資質を高めあう、同僚性の高い職場	(1) ア・1人1台端末を活用した協働的な学びの支援にプロジェクトチームを中心にして組織的に取り組み、好事例を共有する機会を設け、ICT 活用の活性化を図る。また、生徒が自己肯定感を獲得できる、地域連携事業をはじめとする取り組みが、次々と立案され実現できるような雰囲気をつくる。 ・OJT を推進し、教職員全体の指導力の向上に努める。公開授業週間を設定して授業交流を促進し、研究協議、定通校交流、他校見学等に取り組む。 ・経験年数の少ない教員に対し、教職員全員でOJT を心掛け、相互の気づきと資質の向上につなげる。	(1) ア・学校教育自己診断(教員)「教育活動について教員間で日常的に話し合っている」の肯定値が 75%を超えている。[72.7%] ・公開授業週間を2回以上実施。[2回] ・メンターが経験年数の少ない教員と協働する機会の設定。	(1) ア・「教育活動について教員間で日常的に話し合っている」の肯定値→71.4% 毎月の支援教育委員会や毎日の連絡会で日常的に情報を共有し、生徒の支援・指導の方向性を共通のものとしている。(○)
	イ 組織的緊急対応	イ いじめ・虐待等の生徒指導事象や災害等の危機管理事案に対して、全職員が迷いなく適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。	イ 災害、犯罪等、緊急事案が生起した場合を想定し、オンライン等による情報伝達を確実に行う。	イ 生徒への声かけと見守りを充実させて個別の生徒支援に取り組み、事案においてもその背景も見定めたうえで、生徒にとって適切な支援・指導の方向性を共有している。 学習支援クラウドサービスを生徒の日々連絡や職員の双方向連絡等に活用し、緊急時にオンラインによる確実な情報伝達ができる体制を整えている。(○)
	(2) 教職員資質向上	(2) ア 教職員の人権研修を充実させ、自らの人権感覚を高めるとともに、人権意識を見つめ直す機会とする。専門人材(SC、SSW)等と連携を図り、生徒の状況に応じた教育活動を推進するための理解を深める。 イ 経験年数の少ない教員を積極的に事業の長に登用するなど次代のミドルリーダーの育成を進める。 ウ「全校一斉定時退庁日」「ノークラブデー」「学校閉庁日」の取り組みを行うとともに、校務において ICT を活用し、学校運営の効率化を図る。学校行事や会議などの業務内容を見直して負担軽減を図る。	(2) ア 人権研修を含めた職員研修を2回以上実施する。 イ 経験年数の少ない教員がリーダーとなるプロジェクトを1回以上実施。 ウ 時間外勤務月 80 時間以上の職員がでないよう、校務運営の効率化を図り、業務の平準化をめざす。[80 時間超 0 名]	(2) ア 地域の人権センターと連携し、講義とフィールドワークによる人権(同和)研修を実施した。SSW による事例研修を2回行い、生徒指導上の課題のアセスメントとプランニングについて理解を深めた。(◎) イ 経験年数の少ない教員が、総合学習等の運営に参画し企画を遂行する機会を設けた。(○) ウ 生徒アンケートのフォーム作成ツール活用などで、校務の効率化を図った。時間外勤務が、月 80 時間以上の職員は 0 名、平均 45 時間以上の職員もいない。(◎)